

(社)日本建材・住宅設備産業協会 新会長就任挨拶

ただいまご紹介いただきました木瀬でございます。



新会長 木瀬照雄

本日は、公務ご多用のところ、経済産業省の細野製造産業局長、国土交通省住宅局の越海木造住宅振興室長はじめ、両省幹部の方々、並びに当協会に關係の深い諸団体、報道関係など多くの方々にご参会いただき、まことに有難うございます。

また、協会会員の皆様には先ほどの総会に引き続きご出席いただき有難うございます。日頃から、協会運営にご尽力賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

先ほどの平成20年度通常総会におきまして、事業計画、予算など全ての議案が承認されましたことを、まずはご報告申し上げます。

私は、その後の理事会で会長のご指名を賜り就任いたしました。責任の重さをひしひしと感じているところでございます。

前任の吉田会長には二年間にわたり、当協会の改革に先頭に立って取り組まれてこられました。副会長をご退任の吉野石膏 須藤様、太平洋セメント 木村様、セントラル硝子 中村様のお三方も、高い知見をもって我々をご指導くださいました。改革の内容については、昨年この場所で吉田会長から報告されましたが、とくに財務基盤の安定化には顕著な実績をあげられたと思います。皆様には御協力まことに有難うございました。

このような名会長の後をお引き受けするには大変荷が重いのでありますが、皆様方のご支援を賜り、また、新たに副会長として就任された太平洋セメント 鮫島会長、日本板硝子 藤本社長、ニチハ 吉田会長にもご協力をいただきながら、協会発展のために微力を尽くしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、業界を取り巻く環境は、昨年夏以降の建築着工の落ち込みがここにきて漸く回復基調になってきたとは言え、原油価格の高騰もあり、まだまだ不安定な様相が続きそうであります。

こうした厳しい環境のなかで、私は以下のテーマに重点的に取り組んでまいりたいと思います。

まずは財政基盤の安定です。前執行体制において、かなり強力に進めてきたテーマであり、理事会社の協力もあって、これまでのところ順調に推移してきております。私は、この路線を踏襲しつつ、今年から施行される新公益法人制度の中で一定の地位を確保できるよう、引き続き努力を重ねてまいります。

次に、建材・住宅設備の情報提供について、新たな取組みをスタートいたします。のちほど皆様にご紹介させていただきますが、利用者の視点を重視しつつ、メーカーにとってもメリットの多いサービスになるであろうと考えております。

第三に、環境への配慮や安全・安心への取組みであります。当協会では以前から環境問題には積極的に取り組んでまいりましたが、景観や住宅に係わる建材・設備機器のメーカー、団体を網羅的に擁する当協会の特長を活かし、省エネルギー分野での消費者への広報・普及や、VOC表示制度などに取り組んでまいります。

そして、何よりも建産協が会員企業・団体にとって魅力ある場であるかを、常に問いかけながら運営していきたいと考えています。

ご承知のように、平成17年に旧・日本住宅設備システム協会から事業を継承し、とくに住宅設備関係分野の事業領域が拡大いたしました。この間、新たな体制のもとで協会活動はどうあるべきかに取り組んでまいりました。これからも引き続き取り組まねばならない課題であると感じております。建材、住宅設備それぞれの問題と協会全体の問題を調整しつつ、そこから生み出された新たな課題に取り組むことが、協会活動の活力となるようにもっていくことが必要になります。そのためにも、各委員長・各部長のご協力が不可欠でございます。どうぞよろしくお願い致します。

最後になりますが、以上の課題に取り組むにあたっては、当協会運営に直接関わる方だけでなく、住宅産業窯業建材課をはじめとする関係省庁の皆様、ご来賓の方々のご理解とご支援が不可欠でございます。

日本建材・住宅設備産業協会は、その役割を十分に認識しつつ、協会のプレゼンス向上に一層取り組んでまいります。皆様方のこれまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(2008年6月10日 総会后懇親パーティ席上)